

2013年度見学記

私たち化学科3年生は、毎年の恒例行事である工場見学を2月26日に行ないましたので、この場を借りてご報告させて頂きます。

今年の参加者は、学生23名と中嶋先生、河内先生でした。かつてない異常気象の続いた2月でしたが、見学当日は天気に恵まれ、まさに見学日和の1日でした。

午前は、武田薬品工業株式会社湘南研究所を見学させて頂きました。2011年に竣工したばかりの新しい研究所で、日当り風通しが共に良く、耐震構造や自然との調和にも優れた心地よい施設でした。まずは、会議室にて同研究所に勤められている本学科に所属する研究室のOGの方から企業の説明を受け、企業紹介のDVDを見ました。次に、武田薬品の歴史の品が飾られている展示室や、研究者の交流スペースであるノマドなど、所内の各施設を見学しました。また、数百万種類もある薬の「種」の中から最適なものを自動的に選び出すハイスループットスクリーニングについての説明を受け、実際にこの装置が稼働しているところを見学しました。さらに、結晶構造解析について説明を受けた後、スーパーコンピューターによる計算化学で設計されたタンパク質に対する薬の作用機構のシミュレーション動画を見ました。最後に、同研究所で研究をされている本学部OBの方々との懇談会があり、企業での研究の様子やその体験談など、大学では決して聞くことのできない貴重な話をして下さいました。

午後は、旭硝子株式会社中央研究所の見学をさせて頂きました。まず社員食堂で昼食をとり、その後AGCと中央研究所の概要説明を受けました。見学は3班に分かれて行ないました。様々な機能を持つガラスや、フッ素を扱った製品の展示室や、物質表面の状態や物性などの分析を可能とする分析装置各種、ガラスの溶解実験のデモンストレーションを見学しました。最後には、質疑応答の時間を設けて頂き、本学部OB、OGの方々が質問に答えて下さいました。質問内容は企業のシステムや研究内容、またこれから始まる研究室生活において社会人になる前にやっておくべきことなど様々でした。「大学では研究に対する姿勢・方法を是非とも身につけてほしい」というOBの方からの言葉が印象的でした。

今回の工場見学を通して、机上の勉強では知りえないこと、学生実験と企業の商品開発向けの研究の違いを学ぶことが出来ました。私たちにとってこの見学は、普段体験することの出来ない有意義な時間となりました。

最後に、お忙しい中で貴重な時間を割いて下さった企業関係者の方々に心より御礼申し上げます。また、引率して下さった中嶋先生、河内先生にも併せて御礼申し上げます。ありがとうございました。

2013年度工場見学幹事・副幹事
定光勇太 小西美葵